28 クチナシ

アカネ科

名前の由来
かじつがじゅくしても開かないため、口がないので開かない実の意味から「口なし」という名前がついた。

6～7月に、いいにおいのする白い花がさく。

かじつは、「さんしし」とよばれ、
かんぽうやくにつかわれる。
料理用の着色にもつかわれる。
きんとんを黄色にするときにつかわれる。

クチナシ

和名	梔子	28
別名	山梔子（サンシン）	

分類				
	科（APG分類）	アカネ科	属	クチナシ属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・果実が熟しても裂開しないため、口がないので開かない実の意味から「口無し」
・果実の形が「梔」という酒器に似ていることから
・実のある突起部分を鳥の「くちばし」に見立てた。それが訛って「クチナシ」に。

樹木の特徴

・静岡県以西、四国、九州、沖縄に分布する常緑小低木。丘陵の林縁などに自生し、庭木、公園樹などとして植栽される。
・花は両性花で、花期は6～7月、枝先に1個ずつ芳香のある白色の花をつける。萼筒は倒円錐形で長さ1cm程、裂片は線形。花冠は高杯形で、先は5～7裂。雄しべは花冠の裂片と同数で花糸は短い。花柱はこん棒状。
・果実は肉質の液果で、長さ2～3cmの楕円形で5～7稜あり、先端に萼片が残る。11～12月に橙色に熟すが裂開はしない。種子は長さ約4mmの扁平な卵形。
・樹皮は灰褐色色。葉は対生または3輪生する。葉身は倒披針形または長楕円形で革質。縁は全縁で裏側に反り返る。葉表は濃緑色で光沢がある。

用途・その他

・果実は「山梔子（さんしし）」と呼ばれて漢方薬に使われ、消炎、解熱、鎮静、止血などの効能がある。
・料理用の着色には、きんとん、さつまいもたくあんなどを黄色に着色するほか、実を発酵させることで青色もえられるため、和菓子の青色にも用いられてきた。

・ジンチョウゲ、キンモクセイ、クチナシは香りの良さで、「三大芳香花」、三大芳香樹、「三大香木」の一つに数えられる植物。
・足つき将棋盤や碁盤の足の造形は、クチナシの稜のある果実を形どっている。「打ち手は無言、第三者は勝負に口出し無用」、すなわち「口無し」という意味。

作成年月日　2021，09，16